

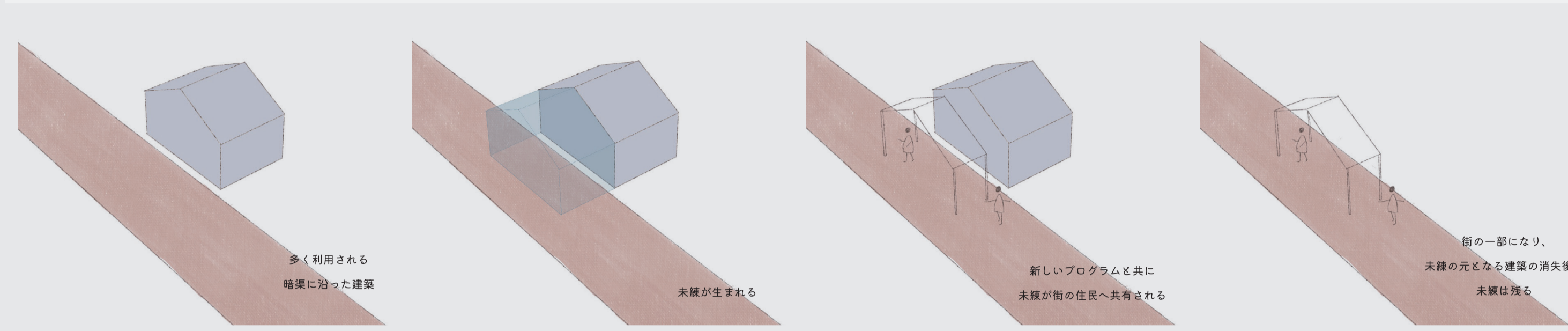
未練の残る街 - 流れに連なる未練の宿存 -



身近にあ価値のあるものに「未練」を感じ、保存したいという衝動に駆られ、様々な保存行為が生活には溢れている。しかしそれらの様々な保存行為に窮屈さを感じており、それは建築に対する敷地のあり方や保存行為も同様である。私は生活のコンテキストである建築が構成する街並みや暮らしの記憶など、新旧関係なく固有の未練も抱くべきだと考える。

そこで、本設計では街の新しい更新方法を提案する。

街の様々な未練を可視化しプログラムを加え街に馴染むことで、変遷する街並みに未練がひと時でも長く宿存することを理想とし、本設計で設定した敷地に留まらず、暗渠を通して都市全体に広まる計画としている。



「街を暮らし、感じること」

私は生活をしている中で「昔の景色」と「現在の景色」を重ねることが多くある。家周辺、通学路、久しく訪れた観光地など、たくさんの風景がレイヤーのように重なり合い、構築され、誰しもが記憶の一部のように保存されているだろう。それらの素材として建築や街の構成、コミュニティは大きな役割を占めており、建築が消え、建築が生み出されるその度に自分の記憶はどんどん変化してゆく。

ふと考えたとき、その記憶の中で変化したと思う境界線、自分が古い・昔と思う境界線はどこなのだろうと疑問に思った。都市圏などの街は特に目まぐるしく変化してゆくが、それらの多くは効率性を重視し観光資源やオフィスビルなどになることが多い。私の主観ではあるが、自分の暮らしから名古屋市の建築は他地域に比べ非効率への許容が狭いと感じ、必要とされなくなるとすぐに効率重視の施設へと変わってしまう。ただそれを悪くは思っていない。新しい要素はとも大切なことだ。しかし保存すべき建築も多くあり、一種の観光資源として保存されている。

そんな開発と保存が同時進行しており、それらが乖離している様子への理解が名古屋市民は薄いのではないかと感じる。新しい街に変化していくことに抵抗はないが、何か違和感を感じるはそこだった。

昔から馴染みのある建築が突然取り壊され、姿を消して全く新しいものになっていくことで記憶の中で新旧の境界線が生まれてゆく。「昔はこうだった」と言われる基点はそれら建築の入れ替わりであり、それを当たり前に入れてきた。

「私的要素の共有」

未練は私的なものでありながら、私的空間や公的空間に限らず生まれる。その未練をただ私的なものとして終わらせるのではなく、私的と公的空間が混ざり合う街で可視化させ、物販や福祉、アートのスペースなど、地域の人に向けたプログラムを新しく導入することで、プログラムとともに未練が共有される。すると未練はただの未練ではなく、街の一部と変化していく。

その可視化された未練は子供にとって新しくこれから慣れ親しむであろうコミュニティや、単身者・老人の生活を助けし豊かになるようなコミュニティを生み出すきっかけとなり得る。

それら未練は要素の元となる建築本体が消失してもその場に残り、記憶が可視化されたようにその場にあり続け、それらが増えてゆく風景の未練が残る。

そうして変遷していく街並みにひと時でも長く、未練が残っていく環境づくりをし、新たな街の更新方法へのヒントが見つけれられるのではないだろうか。

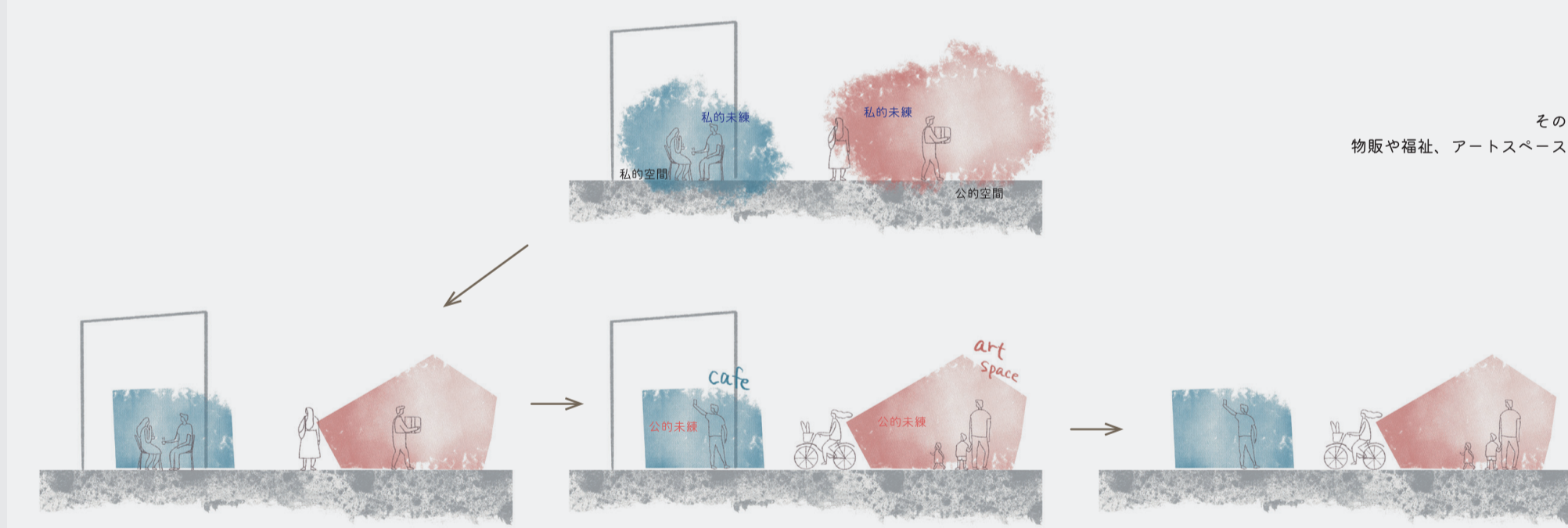
その街に住んでいた人も、新しくこの街を訪れた人も、ほんの少しでもその痕跡を感じ、街の形を感じる事ができるだろうか。

「名古屋市と暗渠」

具体的な設計をするにあたり、私が長く過ごしてきた名古屋市中村区稲葉地を選んだ。名古屋市には暗渠が多くあり、開渠・暗渠をマッピングすると名古屋全体に透達している様、広く河川が広がっていることがわかる。

設計で未練を残すにあたり、特に住宅街では未練を残す余地が少ないと感じている。そのため田舎が広がっていた名残である暗渠の通る敷地とすることで、ただ川が埋まってしまっている土地を利用し、暗渠を通して名古屋全体に街への未練を残す計画としている。

暗渠から成る歩道は集合住宅群に面していたり、通学・通勤など、アクセスの根幹として多くの人々が利用しているため、そこへ残る未練はたくさんの人と関わりを得ることになるだろう。



「生活・建築の保存について」

日本、もとい愛知県名古屋市には残すべくして残されてきた建築がたくさんある。それらの多くは価値を見出され保存されてきたが、全てが必ずしも保存されてはならず、今でも議論を重ねられ数々の建築が壊され保存されている。しかし、その議論にも出されないような建築は数多くあり、私達が暮らすこの街の風景一つ一つ、新旧関係なく価値は存在するだろう。大衆には知られず、その人だけの価値や保存すべき事情が街には溢れかかっている。

建築を視野に入れて生活している人にとっての価値
建築が視野に入らず生活している人にとっての価値

視点も様々にあるだろう。その中でも「生活」という言葉は建築知識の有無に関わらず多く当てはまるのではないだろうか。どんな人でも建築は生活のコンテキストとしてどこかに紛れおり、意識はせずともどこかにある。

建築にはリノベーション、ファサード保存、移築などたくさんの手法が存在するが、それらは建築への意識がある人が多用している凝り固まったイメージがあり、全ての人が常に考えることではない。

そんな中、誰しもの生活の中で価値を見出され他物の多くは写真として残されていることが多い。その時代に生まれた人もそうでない人も、その写真を見れば記憶に触れることができる。道具や食べ物なども同様であり、様々なテクノロジーの進化によって多くのものが残されてきた。

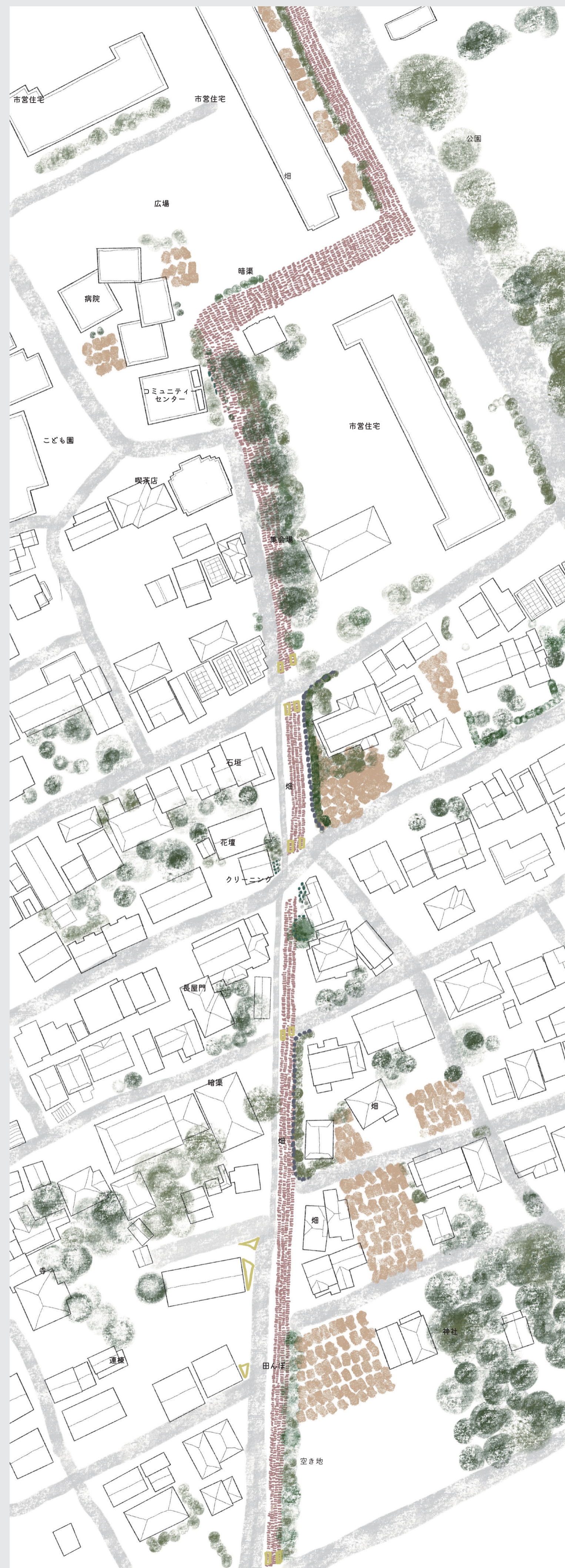
それらは建築の保存行為よりも柔軟なものであると考え、どんな保存行為があるのか観察し、動向を取り出し設計に生かすことにした。

自分自身が見つけた生活の中の保存行為は主に下記の通りである。

触れる	ドライフラワー カットした宝石 鉱物 ミイラ こどもの歯	真似る	曲カー 実写化 音響域フォトリメトリ 日本産インドカレー 復元 (全て、ファサード)	移動する	たんぽぽ 移築 カー 車カバー ピアノカバー フィルムブックカバー フィルムブックシェル
透ける	ビニールブックカバー フィルムブックシェル 中身の見える醤油容器 容器が透明な液体石鹸	隔たる	タンス収納 ピアノカバー 車カバー プラスチックチューブ製の具 容器が不透明な液体石鹸 ビニールブックカバー フィルムブックシェル	放つておく	鉱物 ミイラ こどもの歯 原価ドーム
変わる	団体系石鹸 金属製チューブ製の具 二次創作 押し花 缶のハンドクリーム 標収納 中身の見える醤油容器 容器が透明な液体石鹸	合わせる	隣接建築 日本産インドカレー 再整備	ないけどある	クラウドデータ保存 紙媒体 = 電子化
		整える	リフォーム カットした宝石	増える	たんぽぽ 増築

<p>変わる 団体系石鹸</p> <p>時が経ち使われるにつれて形が変わっていく。時間の経過が裏面に可視化されている一つの例だと考えた。比べてポンプ式の液体石鹸は直で保存物に触れず、直で時の経過を体感しにいたため、記憶への保存の観点から見て団体系石鹸に魅力を感じた。</p>	<p>隔たる タンス収納</p> <p>保存中の様子が見えない。引き出しがあることで衣服の状態を常に側で感じることができ隔たりを感じる。</p>	<p>増える・移動する たんぽぽ</p> <p>たんぽぽの種は風や人によって遠くへ場所を変えて種を保存する。道具や建築にはない要素を持っていくと感じる。</p>
<p>放つておく 鉱物</p> <p>鉱物は自然に生まれそのまま発掘され鑑賞されたり利用される。宝石として整える時に削ぎ落とされる部分も含め、自然のままの形に魅力を感じた。</p>	<p>合わせる パッチワーク</p> <p>全く別の布がつながり合わせ用途を持つ。使われなくなってしまう再利用方法としてとても魅力を感じた。</p>	<p>ふれられる ドライフラワー</p> <p>花の保存方法は様々あるが、ドライフラワーがもっとも直に触れやすく時の経過を感じやすいと感じた。</p>
<p>透ける 醤油</p> <p>中身の消費状況がわかり、なくなってしまう瞬間がわかりやすい。</p>	<p>真似る 復元</p> <p>保存するべきもの、もしくは既に無くなったものを真似ることは、其感を得るための条件が必要な場合がある。テクスチャ・様子・構造・人との関係性などどこまで復元するか、どこまで復元できるかの具合が難しい。</p>	<p>カバーする ブックコートフィルム</p> <p>透明で中身が見えるものの、本の素材感を消してしまうことが魅力を失ってしまうと感じる。本の保護が本の質感のどちらかを優先するべきか難しい点である。</p>

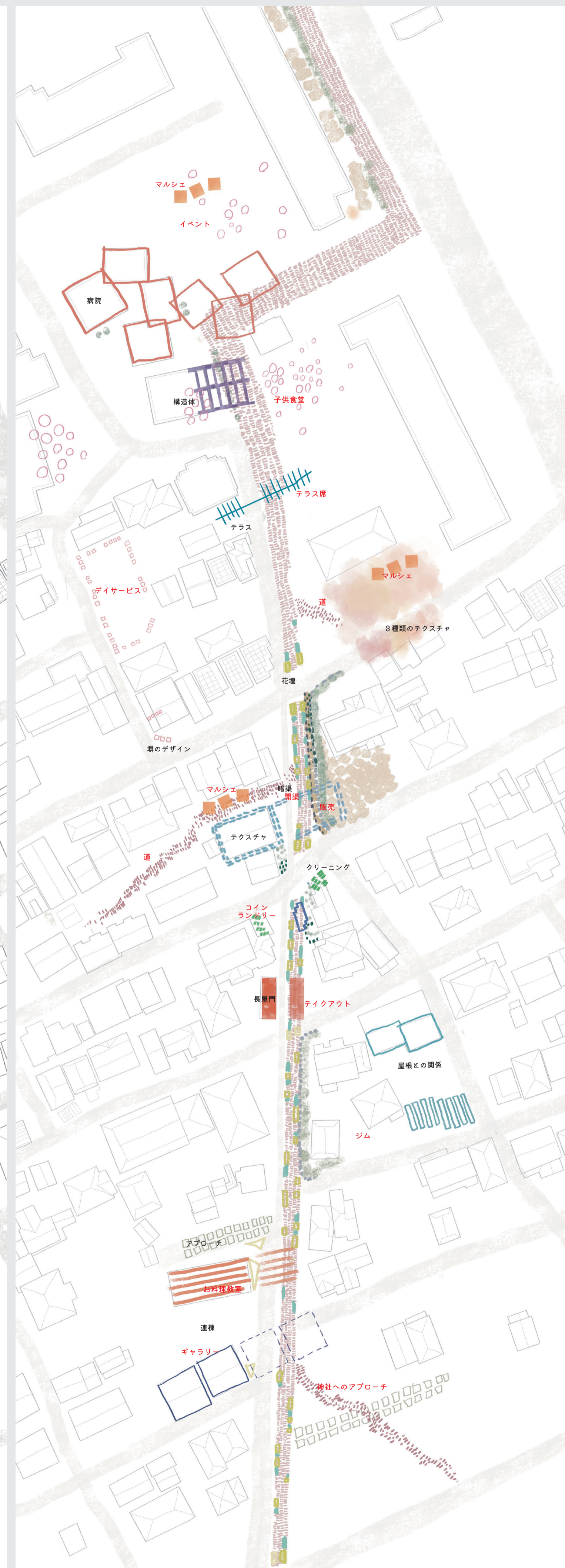
既存の街並み



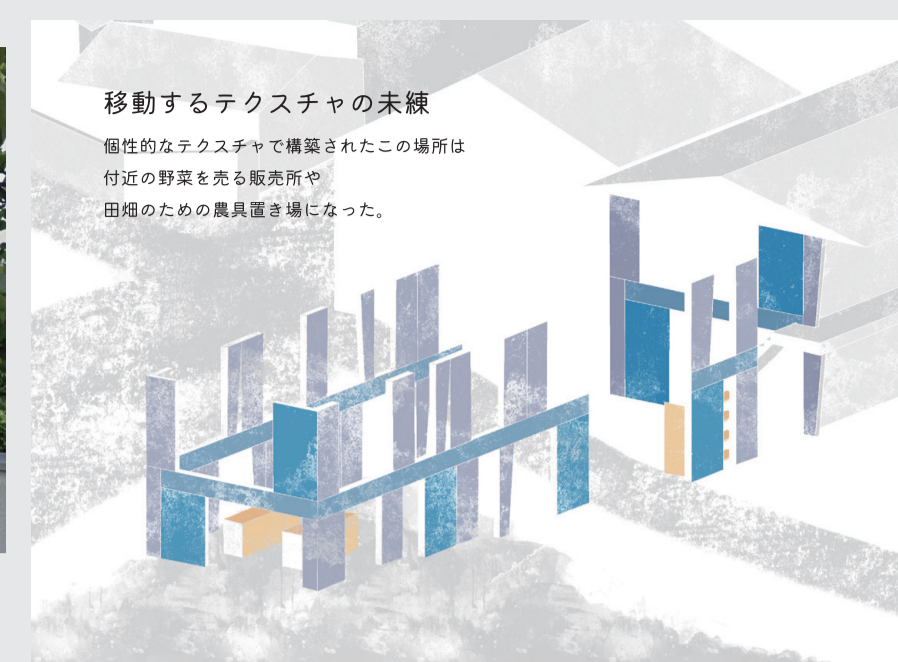
未練を取り出す



取り出した未練を可視化しプログラムを入れる



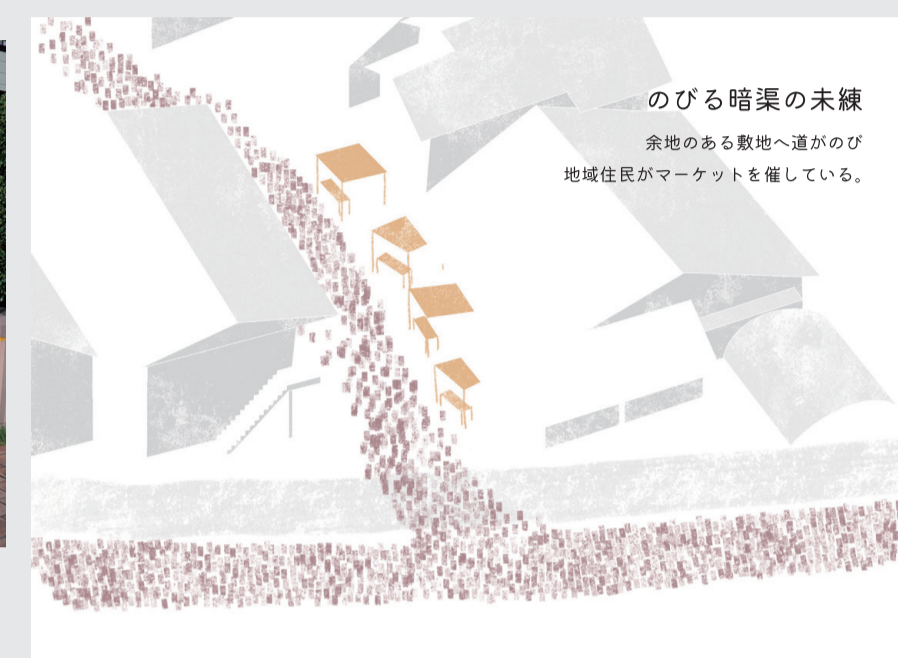
壁のテラスチャ



移動するテラスチャの未練
 個性的なテラスチャで構築されたこの場所は
 付近の野原を失った販売所や
 田舎のための農具置き場になった。



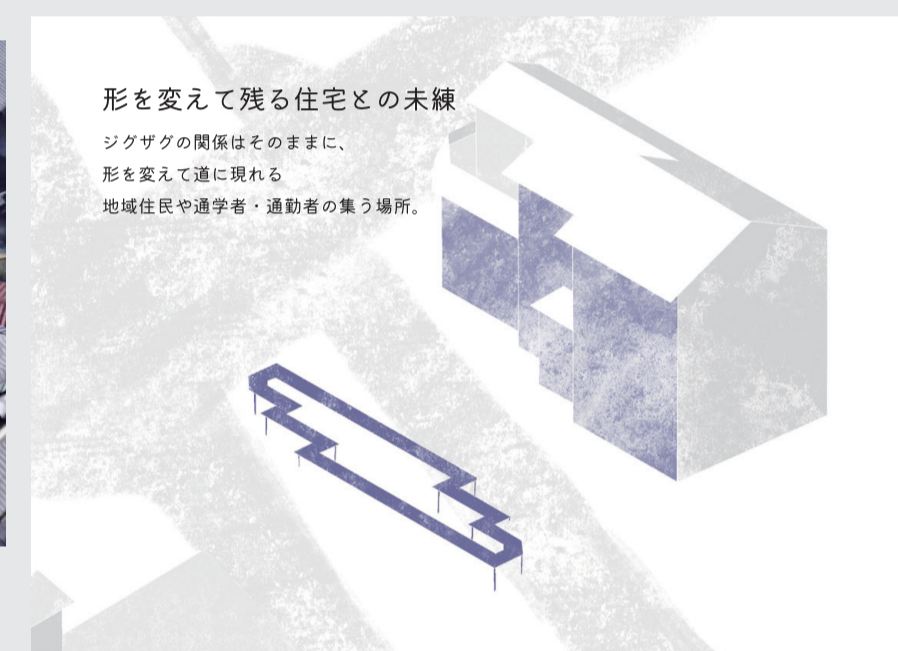
暗渠



のびる暗渠の未練
 空地のある敷地へ道がのび
 地域住民がマーケットを催している。



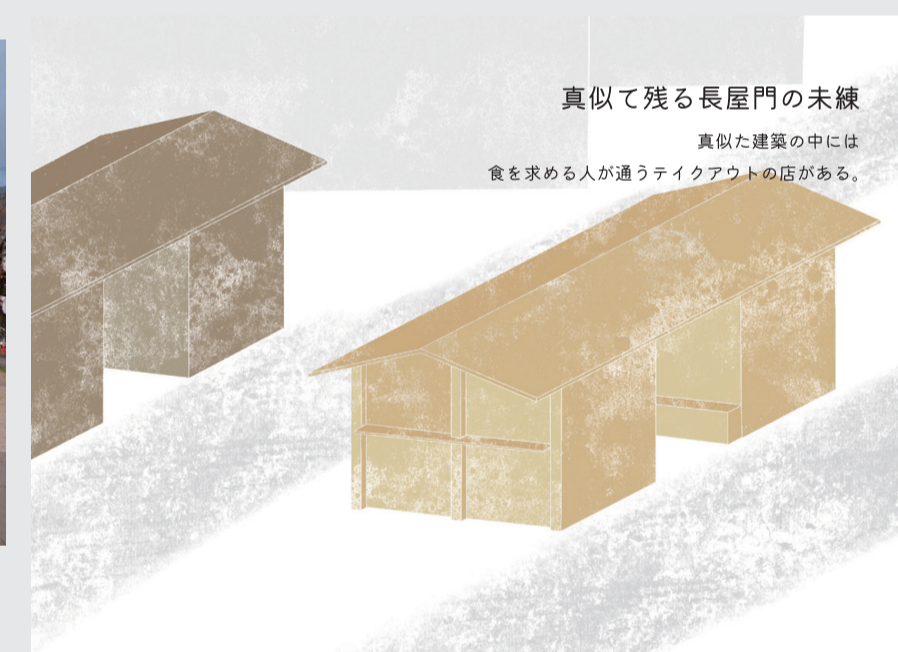
住宅との関係



形を変えて残る住宅との未練
 シクザグの間隔はそのままに、
 形を変えて道に開れる
 地域住民や通学者、通勤者の集う場所。



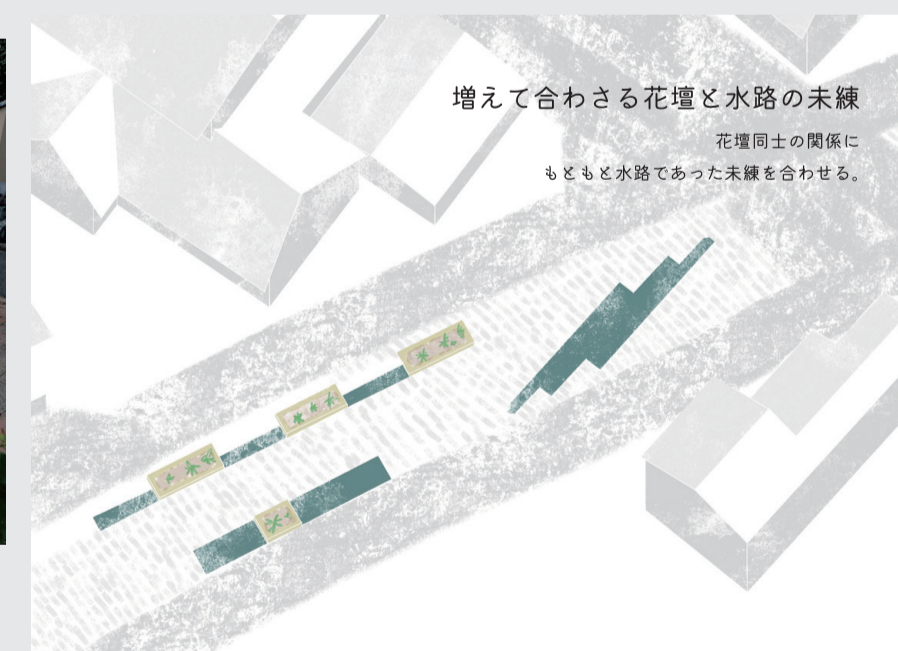
長屋門



真似て残る長屋門の未練
 真似た建築の中には
 後を求め人が通うテイクアウトの店がある。



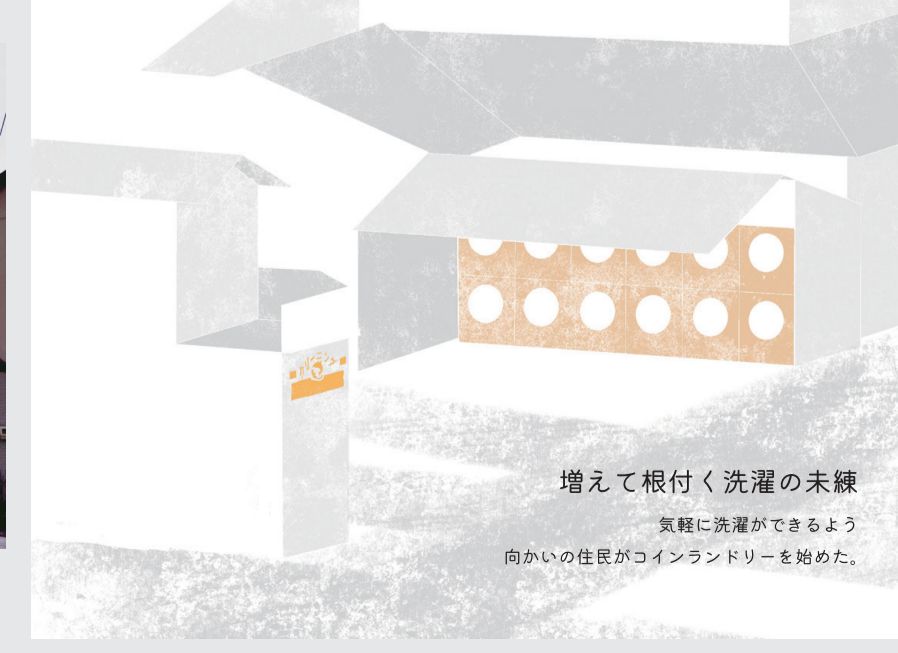
花壇



増えて合わせる花壇と水路の未練
 花壇同士の間隔に
 もともと水路があった未練を合わせる。



クリーニング屋



増えて根付く洗濯の未練
 気軽に洗濯ができるよう
 向かいの住民がコインランドリーを始めた。